

施策評価シート

施策等名称	環境への負荷が少ないまち ー循環型社会の構築ー	体系番号	0301010104
		主管課	美サイクルセンター

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市の一人一日当たりごみ排出量は、全国平均や長野県平均より多い状況にあり、家庭系ごみ、事業系ごみ共に一層の発生抑制・排出抑制・資源化等を進める必要がある。 また、ごみの適正処理を進めるとともに、近隣自治体と連携して、し尿処理施設や焼却施設の効率的な運営を進める必要がある。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	人の生活や活動に伴って発生する廃棄物を抑制するとともに、安全で快適な環境への負荷の少ない持続可能な循環型のまちを目指します。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値
	①	一人一日当たりごみ排出量	一人が一日に排出する資源物を含むごみの排出量(g)	943.70	885.70
②	可燃ごみ量(家庭系・事業系の総量)	年間量 (t)	16939.10	14786.50	※ごみ処理基本計
③	茅野環境館来館者数	茅野環境館年間来館者数(人)	10915.00	11000.00	11000.00

施策の柱 1	名称	循環型まちづくりの推進		主管課	美サイクルセンター		
	詳細	環境に配慮した製品の使用やリサイクル・リユースを推進するとともに、家庭や事業所などから排出される廃棄物の削減や適正な処理を行い、循環型のまちづくりを進めます。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1	リサイクル率	資源物量/年間ごみ量×100 (%)	13.82	30.00	1 環境美化推進事業	実施
					ごみ処理基本計画改定時に設定	2 可燃ごみ焼却事業	実施
	2					3 可燃物処理費	実施
	3					4 茅野環境館管理運営事業	実施
					5 資源物収集処理事業	実施	
					6 し尿処理事業	実施	
基本政策間連携							

施策の体系	名称			主管課			
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1					1	
						2	
	2					3	
						4	
3					5		
					6		
基本政策間連携							

施策の柱 3	名称			主管課			
	詳細						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1					1	
						2	
	2					3	
						4	
3					5		
					6		
基本政策間連携							

施策等名称	環境への負荷が少ないまち ー循環型社会の構築ー	体系番号	0301010104
		主管課	美サイクルセンター

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	一人一日当たりごみ排出量	943.70	897.00	900.90	887.61		
1		885.70	4.9%減	4.95	100.22	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	事業系可燃ごみの総排出量が大幅に減少したため					
	2019年度	ごみ減量化の取り組みは継続的に実施しているが新たな取り組みがないため、排出量が微増した。					
	2020年度	ごみ減量化の取り組みは継続的に実施しているが新たな取り組みがないため、排出量が微増した。					
	2021年度						
	2022年度						
施策	可燃ごみ量(家庭系・事業系の総量)	16939.10	16431.50	16479.90	16025.10		
2		14786.50	4.4%減	4.1%減	108.38	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	事業系ごみの内容物展開検査実施、直接持ち込みの事業者へ分別指導を行ったことより事業系ごみの排出量が減少したため。					
	2019年度	ごみ減量化の取り組みは継続的に実施しているが新たな取り組みがないため、排出量が微増した。					
	2020年度	ごみ減量化の取り組みを継続的に実施していること及び社会的な要因等により、排出量は減少した。					
	2021年度						
	2022年度						
施策	茅野環境館来館者数	10,915	9,625	9,195	8,727		
3		11,000	87.50	83.59	79.34	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる					
	2019年度	リサイクルショップ等の民間の事業者が増えていることが要因として考えられる					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、4月に休館としたため					
	2021年度						
	2022年度						
柱1	リサイクル率	13.82	14.24	13.98	14.48		
1		30.00	47.47	46.60	48.27	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し可燃ごみの総排出量が減少したため					
	2019年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2020年度	資源化総量は前年度とほぼ同水準を維持し資源物の総排出量が減少したため					
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	環境への負荷が少ないまち ー循環型社会の構築ー	体系番号	0301010104
		主管課	美サイクルセンター

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)		
投資額	事業費(円)	467,619,145		518,797,668	1.11	597,673,621	1.15	441,714,000	0.74			
	うち一財(円)	449,821,203		501,480,724	1.11	584,155,977	1.16	437,063,000	0.75			
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)			諏訪南リサイクルセンターの建設により、負担金が増えたため		諏訪南リサイクルセンターの建設により、負担金が増えたため						
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調						
総合評価	主な取組内容や成果	可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための重要な取り組みである。		可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための重要な取り組みである。		可燃物・資源物を減量化し、適切に処理するための住民への周知や、市民活動付団体と連携した取り組みを行うことなどを継続して行っている。また、環境館での普及啓発も3Rの推進のための重要な取り組みである。						
	課題	排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行う必要がある。		排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行う必要がある。		排出されるごみの量は減少傾向にあり、リサイクル率も上昇している。しかし、市民の環境に対する意識を向上させる取り組みは、継続して行う必要がある。						
改革・改善	改革・改善内容	ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を行う。		ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を行う。		ごみの出し方や資源物の分別について、様々な手段や方法を用いて市民にPRすることが必要である。美サイクル茅野と協働して、ごみ減量に取り組み雑紙回収袋を作成・配布する等の市民への啓発活動を継続する。						
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1					
		重点事務事業	1		1		1					
	理由	環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。		環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。		環境に対する市民意識の向上のため、市民活動を活発にし、毎年開催している環境展でのPR等の活動が重要である。						

作成担当者	金井和人	金井和人	金井和人		
最終評価責任者	堀内俊彦	岩島善俊	岩島善俊		
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月17日	2021年5月28日		